

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

今月のこのコラムまさに今、仏国で波に乗りまくっている「時の人」をご紹介したい。管理する3歳馬たちが重賞競走を次々と制している。ジャン・クロード・ルジエ調教師(63歳)が、その人である。

ルジエ厩舎にとって今年の重賞初制覇となつたのが、4月20日にシャンティイで行われたG3ラグロット賞(芝1600m)で、勝ち馬ケマー(牝3)は続くG1仏千ギニー(芝1600m)こそ1番人気に応えられず3着に終わつたが、続くロイヤルアスコットのG1コノネーションS(芝8F)を制し、欧洲3歳牝馬マイル女王の座に就いている。

シーズン2度目の重賞制覇となつたのが、5月10日にシャンティイで行われたG3ギシエ賞(芝1800m)で、勝ち馬アルマンゾルは次走、シャンティイのG1ジョッケクルブ賞(=仏ダービー、芝2100m)を見事に制し、ルジエ師に2度目のダービー制覇をもたらしている。

5月15日にドーヴィルで行われたG1仏千ギニーで、ルジエ厩舎から出走した1番人気のケマーを3着に退けて優勝したのは、同じルジエ厩舎のラクレソニア(牝3)で、同馬は6月19日にシャンティイで行われたG1ディアイヌ賞(=仏オーケス、芝2100m)も制覇。牝馬2冠を達成するとともに、デビューから継続している連勝記録を7に伸ばし、秋の凱旋門賞の有

力候補に数えられている。

ルジエ厩舎は、同じく5月15日にドーヴィルで行われたG2オカール賞(芝200m)をメクタール(牡3)で制覇。その後のG1仏ダービー、G1パリ大賞(芝2400m)では不本意な競馬をした同馬

だが、秋のビッグレースに向けて無視できない1頭となつている。

ギニーズデイの翌日、5月16日にはジャマイエル(牝3)でドーヴィルのG1サンタラリ賞(芝2000m)を、5月20日にはズゴルタダンス(牝3)でシャンティイのG3ヴァマイト賞(芝1800m)を制覇。

更に、6月11日にシャンティイで行われたG3ボーラードムーサック賞(芝1600m)をゼルザル(牡3)で制すと、同馬は7月10日にシャンティイで行われたG1ジャングル賞(芝1600m)に優勝。

6月22日にはターリーフ(牡3)でシャンティイのG3ダフニ賞(芝1800m)を、7月3日にはアルワサナ(牝3)でサンクルーのG2マルレ賞(芝2400m)を、7月10日にはウォーフラッグ(牡3)でシャンティイのG3クロ一賞(芝1800m)を制し、7月14日の段階で、6つのG1を含む14の重賞を制しているのが、ジャン・クロード・ルジエ調教師である。

しかも、ケマーがアルカナ8歳1月市場にて20万ユーロ(当時のレートで約2740万円)で購買されているのをはじめ、

アルマンゾルが同市場にて10万ユーロ(約1370万円)、メクタールが同市場にて30万ユーロ(約4110万円)、ジャマイエルがアルカナ10月1歳市場にて10万ユーロ(約1370万円)、ゼルザルが同市場にて18万ユーロ(約2466万円)、アルワスナが同市場にて7万2千ユーロ(約986万円)と、地元仏国の1歳馬セールにおいて、驚くような高額な投資はするところなく、そこそこのお値段で活躍馬を発掘しているのがルジエ師なのである。

仏国トップトレーナーの多くが、シャンティイ／ラモウレイに厩舎を構えているのに対し、仏国南西部のポーを拠点としているのが、ルジエ師の大きな特徴だ。78年の開業当時は障害馬を主に管理していたが、91年に178勝という仏国における調教師年間最多勝記録を樹立した頃から、その名が全国区となり、90年代半ばから平地のトップトレーナーとして認知されるようになった。ことに牝馬を仕上げる手腕に定評のある人で、仏千ギニーを4度、仏オーケスを3度手中にしている。

ルジエ師の快進撃はいつたどりまで続くのか。秋には仏国の大一番に挑む日本馬もいるだけに、日本の競馬ファンの皆様にもぜひご注目いただきたいところである。